

街道を歩く

東海道駿河以東：02 清水追分—江尻—興津—興津川



江尻宿 府中より2里25町。名物 追分羊羹。
本陣2、脇本陣3、問屋1、旅籠50。町並み13町
入江町、稚児橋渡って魚町、仲町、志茂町、辻町で
宿終り。
港町として栄える。齊明天皇の御代に軍船を造った
のが港町の始まりという。現在、貿易、漁港として
栄えている。山岡鉄斎が西郷に会うべく府中への
途次、薩ツタ峠で不穏な動きがあることから由比から
望嶽亭主人の手助けで舟で清水港に上陸している。
又、徳川慶喜が清水港から駿府の宝台院に入り
謹慎している。

江尻城址

永禄12年(1569)武田信玄の命により築城。武田信光、
山県昌景の後、穴山梅雪が城主となる。天正10年(1582)、
梅雪は狐ヶ崎で家康に降る。本能寺の変の時家康の
お供で塚に居たが、家康と別ルートで帰国の途次、地侍
に殺される。一時中村一氏が城主となるが関ヶ原合戦
の後廃城となる。今、小学校敷地。



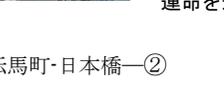
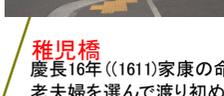
都田吉兵衛供養塔

文久元年(1861)1月15日、清水の次郎長は
森の石松の恨みをはらすために、ここ追分
で遠州都田吉兵衛(通称都鳥)を討った。
里人が吉兵衛の菩提を弔うために供養塔
を建てる。



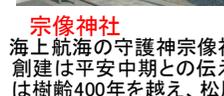
興津宿

江尻から1里2町。名物は”清見寺軟膏”
本陣2、脇本陣2、問屋1、旅籠34。町並み10町55間。
古くは息津、沖津、とも呼ばれる。宗像神社の奥津宮
を勧請したのが地名のいわれとか。身延山への分岐、
難所の薩ツタ峠を控え、興津川が渡河であったので旅人
で賑わった。興津川流域の和紙の集散地でもあった。



宗像神社

海上航海の守護神宗像神、奥津島比売命。
創建は平安中期との伝え。境内に残る松
は樹齢400年を越え、松原であったころは
海上からの目印であったという。



清見カ関・清見寺

白鳳年間(672-86)諸國に關が設けられた時、東北の蝦夷の
備えとして關が設けられた。關の鎮護のために設けられた
仏堂が寺のおこりという。平安時代、天台宗。鎌倉時代には
禅宗。室町時代には足利尊氏の崇敬篤く、室町幕府は官寺
と定め、「全国十刹」の寺の1つに置き保護した。
戦国時代には争奪の地となり荒廃した。今川の軍師、太原
雪斎が再興。家康も今川の人質の時ここで教育された。
ここは、対岸の三保の松原とともに景観がよく古来より多くの
歌人に詠まれていた。

”清見湯月すむ夜半のうき雲は富士の高嶺の煙なりけり”西行
”ちぎらねどひと夜は過ぎぬ清見湯にわかるるあかつきの雲”
藤原家隆
島崎藤村、明治26年2月漂泊の旅の途中ここに立寄る。
(小説 桜の実の熟する時)

法岸寺

浄瑠璃「朝顔日記」深雪のモデルといわれる
人の墓がある。日向国(宮崎県)財部(高鍋)
三万石城主秋月長門守種長公の娘で
4代目清水船手奉行、旗本1700石山下弥蔵
周勝の婦人。寛永18年(1848)4月18日没し、
当寺に葬られる。婦人の青少年期の数奇な
運命を辿る物語 島田の渡し場に朝顔松残る。

【弥次・喜多】
興津宿に入り、あやしげな茶店で
きなこをつけた団子を買ひ、そばにいた
子供にあげようとすると、糠のつけた団子
いらぬという。自分も食はず犬にやる。
江尻の宿すぎて
降くらし富士の根ぶとをうちすぎて
江尻に雨の霽あがりたり